

業務速報

2011年度年末手当の再申し入れ団体交渉 大震災や大雨の危機を乗り越えた 社員の努力に、実をもって応えよ！ 異常な高額役員報酬、リニアへの投資、 変わらぬ株主配当など、会社にまだまだ余裕あり！

11月17日、本部は2011年度年末手の再申し入れ団体交渉を開催しました。はじめに会社から再申し入れに対する回答があり、その後議論をしました。本部は2011年度年末手当について、「責任組合」であるJ R 東海ユニオンが即日先行妥結を行うなどの否定的な状況の中で、最後まで粘り強く社員の声を代弁し交渉をしました。本部は、あらためて「震災や大雨を乗り越えてきた社員の努力に対して実をもって応えること。異常な役員高額報酬やリニアの推進、変わらぬ株主配当からみても、余裕を持って3.2ヶ月は出せる」と迫りました。しかし会社は、頑なに2.9ヶ月の支給を変えない姿勢を示しました。本部はこの様な社員を大切に思わない姿勢に対して対立を確認し、また、いわれなきボーナスカットはしないよう通告し、持ち帰り検討しました。しかし、諸般の情勢からこれ以上の前進も困難と判断し、17時妥結に至りました。

残念ながら手当の上積みは出来ませんでした。今後も働く皆さんの代表として奮闘していきます。

【申し入れ内容】安全・安定輸送を支える社員の惜しみない努力によって、東日本大震災 や大雨による厳しい状況を乗り越え、業績をほぼ前年並みにまで回復させることができた。この社員の努力に応えるためにも、2.9ヶ月分とする年末手当の回答を撤回し、J R 東海労の要求通り、3.2ヶ月分とすること。

【回答】

平成23年度の年末手当については、11月11日に回答したとおりであり、これを撤回する考えはない。

3. 2ヶ月は十分出せる額だ！

組合：組合は、支給を増やしてもっと社員の努力に報いるべきだと言っている。しかし会社の回答は、これ以上は報いる気はないということではないのか。11日の回答の時に、東日本大震災の対応や大雨等の災害復旧に精力的に取り組んだ社員の労苦に、会社として精一杯報いる…と主張している。しかし、昨年と同じ2.

9ヶ月で。今次の年末手当に社員の努力を反映しているとはとても言えない。実をもっと社員の努力に報いるべきだ。

会社：回答を変えるつもりはない。今後の景気の動向などの世の中の情勢、組合との議論、社員の労苦に応えた精一杯の回答である。

組合：社員の努力は、2.9ヶ月以上のものではないということか。

会社：社員の努力も加味した回答である。

組合：極めて納得できない回答である。再申し入れは、3.2ヶ月の要求である。納得がいかない。

会社：精一杯の回答である。

組合：会社は、社員の日々の尽力に報いるとしているが、今年も2.9ヶ月である。やはり年末手当の金額に社員の努力は反映されていない。

会社：業績、業績予想、景気の見通しも見ている。前年を上回るところまで業績は行っていない。厳しい状況である。第2四半期の業績が下がっている。年末手当も下がって仕方がないところではあるが、社員の頑張りを反映した。

組合：下がっても仕方がないとは組合は思わない。そういう主張では、話は終わってしまう。あのような東日本大震災があって営業収益を97.1%まで盛り返してきている。ほぼ100%ではないか。社員の努力で収益をしっかりと上げてきたではないか。

会社：業績は昨年よりも下がっている。しかし2.9ヶ月の回答をした。

組合：あれだけ落ち込んでいたにもかかわらず、営業収益をほぼ100%に戻したのだ。また、会社は状況が厳しい、厳しいと言っているが、7~9月のGDPは大きく跳ね上がっている。

会社：今後の見通しとして、落ち込むと言われている。先行きの見通しは不透明であり懸念材料が多い。JR東海は景気の動向に影響を受けやすい。

組合：震災特需が来年度に向かって伸びてくる。全てが悪いわけではない。

会社：海外などの影響もあり、楽観は出来ない。

組合：組合はこの間、期末手当は3.2ヶ月の主張をしてきた。業績が良くなったときも含めて、一度も要求は実現されていない。会社には十分出せる余裕があった。

会社：業績が良くなったその一瞬に、それを出せば良いというものではない。あくまでも安定的な支給をすることが前提である。業績が下がれば手当も下げる企業もあるが、JR東海はそうではなく安定的な支給をしている。業績に連動した手当にしると組合は主張するのか。

組合：会社は、悪いときは業績に連動して支給しているではないか。

会社：3.2ヶ月を支給すると他のところに影響が出る。

組合：休日出勤など社員は苦勞している。働き度が上がっている。

会社：基本協約に則っている。要員も削減していない。何ら問題はない。

組合：一人当たりの労働密度は高くなっている。

会社：労働密度は高くなっていない。休日出勤は協約でも決められている。休日出勤は解消に向けて採用を増やすなど対策を講じてきている。

組合：基本的な認識が違う。早期に休日出勤は解消すべきであり、3.2ヶ月の要求にも応えていない。

会社：社員の労苦は認める。

組合：社員は必死で東日本大震災の影響による4、5月の落ち込みを6月以降盛り返

した。第2四半期においてはほぼ昨年並みにまで収益を回復させてきた。また、通期においては、純利益については昨年を上回るとも予測されている。ここまですべての業績を回復させてきた原動力は社員の努力にある。そこが昨年と違うところだ。だから、2.9ヶ月では社員の努力が報われたとは言えない。2.9ヶ月にプラスαはあってしかりである。

会社：繰り返すが、前年よりも業績が下回っているのは確かである。

なぜ役員報酬だけは異常は高額なのか！

組合：しかし、役員報酬は相変わらず高額だ。リニア建設も進めている。株主配当も相変わらず変わっていない。

会社：役員報酬はここでは議論しない。株主配当と年末手当との関係は、どちらかを上げ下げするものではない。役員報酬や株主配当はこの場で議論するものではない。

組合：しかし、安全・安定輸送のために日夜を問わず、額に汗して懸命に努力している社員にとっては納得がいかない。実をもって報いてこそ働く意欲がさらに高揚し、安全・安定輸送もより万全に確保できるのである。

会社：社員の努力には感謝している。リニア建設は未来に向けた投資である。企業が未来永劫経営をしていくために、先を見てプロジェクトを進めていく。10年後、20年後、30年後でも収益を上げる体制を作っていくものである。重要な投資である。

組合：リニアには様々な議論がある。組合はリニアに反対である。将来リニアによって経営が破綻する可能性も決してゼロではない。

会社：将来にわたって、会社が存続していくためのお金を削ってまで年末手当を増やすことはできない。

組合：それだけの投資ができるのだから、年末手当をもっと出せると主張をしている。

会社：必要な投資は、しっかりとしていかなければならない。

組合：3.0ヶ月にしたとしても、1人3万円で全体でも6億円だ。3.2ヶ月でも18億である。役員報酬に比べればわずかなものだ。会社は、役員報酬やリニアに投資できる余裕があるということだ。上には厚くする一方で、下には我慢しろということでは社員は納得しない。やる気も出ない。決して出せない額ではない。世界に冠たるJR東海がこのようなことでは、社員にさらなる一層の奮起をななどと言っても説得力がない。社員としての意欲と誇りなど持てない。

会社：2.9ヶ月は、十分誇りが持てるものである。JR東海の賃金はそもそも世の中の水準を上回っている。

組合：認識が違う。

JR東海がリードして世間水準を引き上げろ！

組合：世の中の水準と会社は言うが、年末手当の世の中の動向はどうか。

会社：経団連の調査によると今年は81万円位と聞いている。

組合：去年はどうだったのか。

会社：詳しい数字は分からないが、77万円位と聞いている。
組合：昨年と比べて上がっているではないか。
会社：昨年は他の企業が悪かったためである。
組合：世間水準を上回るといえるが、決して1番ではない。水準をリードして水準を引っ張る役割を果たすべきだ。そうすることによって消費が上がり景気も回復する。それが世の中への貢献ではないか。
会社：一企業が手当を上げたとしても世の中の景気は変わらない。JR東海は、安全安定輸送で十分世の中に貢献をしている。
組合：しかしまずは、JR東海が手当を上げることから始まる。
ところで、健康保険や厚生年金などの社会保障制度が危うくなっている。これは高齢化や少子化以外にも企業が賃金を抑制する事に原因がある。このようなことを解消するためにも、利益をため込む企業は労働者にその利益を放出すべきである。世界に冠たるJR東海である。手当を3.2ヶ月支払うべきである。
会社：健保の問題まで、一企業では対応できない。
組合：上乘せはしないのか。
会社：しない。
組合：野球部が都市対抗野球でベスト8となったが、ご褒美の報酬はないのか。
会社：野球部の選手は頑張った。応援した人もいるが、年末手当には反映しない。
組合：ご褒美報酬を出せば、会社の求心力も高まるのではないか。
会社：それはあるが、年末手当には反映しない。あくまで業績を見ている。

言われなきボーナスカットは絶対にやらないこと！

組合：再申し入れの項目にはないが、あらためて言うが、言われなきボーナスカットは絶対にやらないこと。
会社：公正公平に評価する。
組合：支給額は35歳ポイントで914,000円であったが、基礎額が315,000円であり、その2.9ヶ月分にするると913,500円となる。この違いは何か。
会社：百円の位を四捨五入しただけだ。大義はない。
組合：組合の要求と会社の回答には隔たりがあり対立を確認する。持ち帰り検討とする。

以 上